



八軒10条西13丁目から眺める西区の山々

表情豊かな 西区の山々

西区の南西部一帯は手稲山をはじめとして、いくつもの山々が連なっています。

ここでは、山頂が西区にあり、国土地理院発行の二万五千分の一の地形図に名称が記載されている山の概要をご紹介します。

手稲山(一〇三三・七〇七m) 昔も今も西区の主峰

昭和四十八年、札幌オリエンピックの会場となった手稲山アイヌ民族は、その険しさに難儀して「タンネ・ウエン・シリ」(長い悪い山)と呼んでいました。また、手稲の語源はアイヌ語の「テイネ・イ」(ぬれているところ、湿地)からきています。

平成元年の手稲区との分区により、南側一帯が現在の西区の区域となりましたが、山頂の三角点は西区側にあります。スキー場や遊園地などの施設がある北側に比べ、南側は今なお深い山の雰囲気を感じさせています。



三角山(三二一・〇七m) 昔はスキーの中心地



▲スキーをする人たちにぎわう三角山

山の形から一目で名前が浮かんでくる三角山。昔、発寒に住んでいたアイヌ民族は、ハチャム・エプイ(発寒のつぼみ山)と呼んでいました。大正十五年には、当時としては日本一の規模の札幌シャントエが、昭和に入ると、大回転競技場が作られるなど、その昔、三角山一帯はスキーの中心地としてにぎわいました。

五天山(三〇三・五m) 平野に突き出た神の山

平和と福井、琴似発寒川と左股川にはさまれて立つ五天山。昭和十年に付近の農民の一人に大國主大神のお告げがあり、有志の手により神社が建てられたといわれます。それは釈迦の国インドの山を意味する五天山神社と名付けられました。こうして、無名の山が五天山と呼ばれるようになった。

りました。現在は、平成二十年に完成予定の西区初の総合公園「五天山公園」の造成が進められています。採石により削られた山の斜面を緑で復元し、地形を生かしたユニークな景観になります。

阿部山(七〇三m) 金銀探掘の夢はるか

平和の滝に向かうと、琴似発寒川とこの辺りで合流する宮城沢川との間に阿部山が望まれます。山の名は最初の所有者の名前だといわれます。

明治の末から昭和十二年ころまで、札幌鉱山として金銀銅が採掘されてきました。最盛期には作業員五百人を数えるほどの活気を見せたという阿部山も、今はひっそりとしたずんできています。

百松沢山(一〇三八・一m) スキー愛好家が登る山

西区と南区の境界線上にある百松沢山。名前の由来は、「百松」という人が最初に入植した」という説と「エゾマツやトドマツが多かったため」という説がありますが、定かではありません。

琴似発寒川の左股上流にあるこの山は、その形状から、三段山の別名もあります。山頂までの登山道がないため、夏に登ることは困難ですが、冬はスキーヤーに親しまれています。

考えてみませんか…②登山のマナーのこと

手軽に自然に親しむことのできる登山。しかし、かけがえのない自然に触れるのですから、最低限のマナーは守りたいものです。また、レジャーとして楽しむためには、安全で事故のない登山がもっとも重要です。十分な備えをしておきましょう。

- 大切な自然、環境を守るため、ごみは必ず各自で持ち帰りましょう。水に溶けないティッシュペーパーも捨てないでください。
- 歩行中の喫煙はやめましょう。また、森林を火災から守るため、火気の取り扱いには十分注意しましょう。
- 生ごみは、埋めても腐るだけで肥料にはなりません。クマをおびき寄せる原因にもなります。必ず持ち帰りましょう。
- ヒグマに出会わないよう注意しましょう(前ページ参照)。また、スズメバチ、マムシなどにも気を付けましょう。
- 登山道は登り優先です。下りの人は待つてあげましょう。
- 夏でもなるべく肌が露出しない服装で出かけましょう。ハチだけでなく、触れるとかぶれやすい植物もあります。
- 動植物を取ったり傷つけたりするのはやめましょう。

※ これらの情報は市、北海道のガイドなどから抜粋しました。